



市議会レポート

第5号

三原市議会議員

正田 洋一

“未来を考える”
“地域をもっと元気にする！”

発行者：正田洋一 三原市本町 2-11-12 正田洋一後援会事務所 TEL/FAX 0848-63-0085 発行責任者：正田洋一

kindness honesty truth fellowship future go ahead kindness honesty truth fellowship future go ahead kindness honesty truth fellowship future go ahead

今号で5回目の発行となります。議員になって、5回目の定例議会が終了しました。一般質問5回目になりました。まだまだ緊張します。質問にも更なる深掘りが必要だと感じます。今議会で新人10人の議員のうち、一般質問を連続5回で行ったのは私だけとなりました。一般質問は、任期満了まで皆勤を続けて行きたいと思えます。「市政の課題は、市民の皆様から」という姿勢を忘れずに取り組んで行きたいと思えます。何なりと言って下さい。また、ご指導ご支援お願いします。
今回は6月議会の模様を中心に報告し、私の考え方を紹介します。

平成26年第3回 定例会 報告

■ 一般質問

『駅前東館および庁舎整備の課題について』

課題認識

市政の2つの重要課題である「庁舎整備事業」および「駅前東館跡地活用事業」を、1つの課題として質問をするものです。単純に言えば、駅前への庁舎機能移転の案を、現在検討中の案に加えたかどうかの提案です。庁舎駅前移転については、先般から多くのご声援をいただくと同時に厳しいご批判もいただきました。しかし、私が伝えたいのは、東館跡地に庁舎を移転することが目的ではなく、駅前の賑わいの一つ的手段と考えています。駅前の賑わいに、庁舎が一定の成果があることは他市でもよくある事例です。庁舎機能移転以外にも、駅前活性化のいい案があれば、それにこだわることはありません。

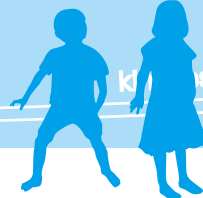
また、財政的に圧倒的に庁舎の駅前移転が有利です。試算時期こそ違いますが、平成24年6月議会に提案された駅前庁舎移転案は、33億円、現在、建て替え案で安価とされる試算で、58億円です。建て替え案を採用した場合、これに駅前東館に作るであろう、公共民間複合施設にも一定の負担をする必要があり、どちらの負担が軽いかは明らかです。また、駅前に庁舎機能を持ってくれば、現在の庁舎部分の土地は売却をすればよいと考えます。今進めている、2つの重要課題は、別々に進めることによって、多大な負担増を市民に押しつけること、それを見えなくするものです。

質問

今年度の大きな市政の課題として、「庁舎整備事業」、「駅前東館跡地活用事業」がある。ともに合併特例債を活用する必要がある。今、議会に駅前東館跡地活用検討事業の委託料が計上されている。民間開発を迫りたいとの意気込みは理解でき方向を否定するものではない。しかし、懸念もある。民間開発が不調に終わる可能性も想定し、庁舎整備と駅前東館跡地を一つの事業と考える選択肢もあるのではないか。例えば、7割近くを所有している駅前西館を庁舎に活用することも1つの案で、駅前西館に入りきらない庁舎機能を東館へ設置するのがよいのではないか。なぜなら、駅前東館の民間開発が不調の場合、公的資金投入による公共民間施設設置が望ましいという声が上がってくる。また、あの地を何もできないというのは三原にとって同じ間違いの繰り返しである。過去、民間進出が不調に終わってきたから、空地のままであった。また、一昨年、平成24年6月議会で、駅前東館への民間誘致には、公共施設の誘致が必要という条件があったはずだ。今回の検討にあたり、財政負担と地域活性化というものさしを用いて、わかりやすく公平な基準で試算したものを提示することが必要である。端的に言えば、庁舎を、駅前西館および東館を利用した場合の財政な試算をした案を加えて検討すべきだ。

私は、駅前東館に庁舎移転を目的としたのではない。駅前の賑わい創出の手段であると考えている。他の自治体で効果のあるとの報告も多い。私は、駅前に庁舎があったら良い悪いとかの感情の議論をしたいのではない。





回答 東館跡地活用につきましては、市長が一貫して民間主導による開発と言ってきた。まちづくり戦略検討会議の答申を受け、駅前への庁舎建設は西館を含めて行わない。今後民間開発可能性の調査、事業スキーム、資金などの整理し、検討を進める

具体的に進める中で民間進出が困難な結論に至った場合は、暫定的に広場としての活用を継続する。あくまでも民間主体の開発を検討していく。

再質問 あくまでも駅前には西館を含めて検討しない、民間開発を優先したいとの答弁だったが、そこで聞くが、民間開発の状況について知りたい。実際に道筋が見えているのか。具体的に、何社からの問い合わせ、申し込みがあるのか、もしくはまったくないのか。また、昨年度一年間まちづくり戦略検討会議で駅前東館跡地活用についての検討をし、これから民間開発の可能性を検討するといわれるが、そんな悠長な時間の使い方ではよいのか。遅すぎるのではないかと。3月議会の一般質問でも同意いただいたが、遅くなればなるほど、機会損失に加え、人件費も資材費も高騰している。時間のロスが一番の損失になることは理解されているか。

また、公共民間複合施設つくるとした場合、いつ完成し、リスタートするのか。最低でも三原城築城450年祭にこのまま空地では困る。最低限の達成時期として29年3月を挙げるが時期についてはどうか。

回答 問い合わせが数社ある。数社とは5社以下の数社である。スケジュールについては、できるだけ早くスピード感をもっていきたい。しかし、相手があるためできるだけ早い時期にとまできと言えない。

要望 まず、29年3月までにリスタートができるよう努力、目標設定してほしい。また、検討時間について、しつこく言ったが、意志決定のスピード化が一番の行革であると考えている。これについては、3月に同意していただいたことだ。また、しつこいようだが、有識者による庁舎整備検討委員会でも駅前移転を支持する声があり、まず案を提示することはできるはずである。そのことを強く要望する。

総括 主張は、質問で展開したとおりです。あとは、市長のメンツだけだと思いますが、意見を聞き入れていただきませんでした。

今後、本件については、特別委員会も設置されますので、その場で主張を展開していきます。しかし、本来の目的は、駅前活性化であり、庁舎移転は有効な手段ではありますが、それにこだわらず、意見していきます。現在、市長は、手詰まりで外部有識者だのコンサルタントなど人任せにしている状態であり、先が見えません。

私は、早急に課題解決が実現するように取り組んでいきます。

■ その他

3月の総括質問でさせていただいた産科医療体制整備検討会議が動き出しました。事前のヒアリング等を担当課で進めていただいております。私も、市民として参加させていただくことになりましたので報告します。

内容については、公開可能なものから報告させていただく予定です。

■ 行政視察報告

『つくば市』

目的は、庁舎整備についてです。つくば市は、三原市とは事情が違い、東京のベッドタウン、研究学園都市で人口が増えています。過去、凍結されたり推進されたりした経緯があり、完成まで10年以上を要したようです。実現には、市長の考えと覚悟が必要であるということでした。判断の全部を市民や有識者に委ねてはいけない。自分の考えをもって市民に聞くべきだということです。

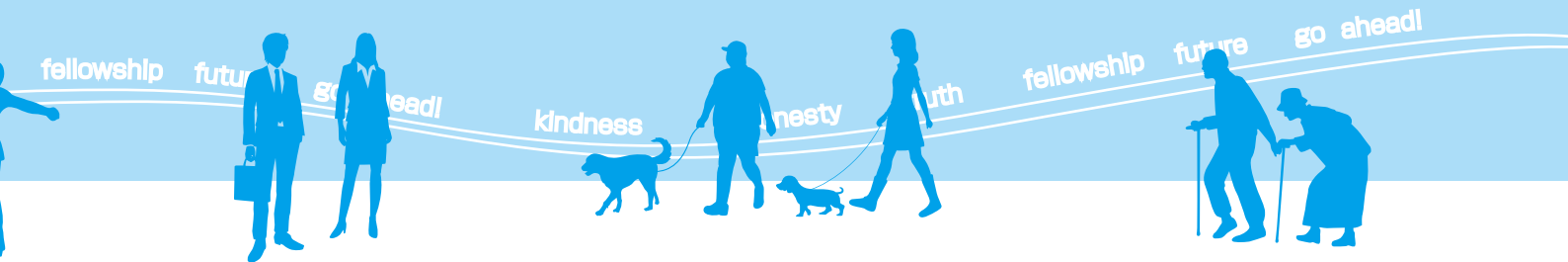
場所選定について、中心市街地のつくば駅周辺ではなく、隣接の学園都市駅近くに設置されました。つくば駅周辺は、土地がなく、庁舎に要する敷地面積が確保できなかったとのことでした。しかし、学園都市駅は、庁舎のおかげで、駅を中心としたハブになっており、人口増の街の勢いを感じました。コンパクトシティという考えではありません。

機能性についてですが、機能性は学ぶべきことがありました。ユニバーサルデザイン、低層階への手続きスペースの集中などがそうです。

三原市の庁舎検討会議で、高齢者や妊婦さん、子育て中のお母さんの使いにくさが指摘されており、参考になりました。

窓口は、複数の事務機器メーカーからの提案を受け、コストを抑え、機能性を追及したとの事です。建物は、7階建て職員数を考慮するとコンパクトで、議会スペースについては、議会用にこだわらず、共用しているとのことです。





予算は、140億円を80億円弱までコンパクト化によって削ったとのこと。反省点としては、コンパクトに作りすぎて、執務の拡大に対応しきれず会議室を削ってしまい不足。エコのために空調を一括管理にしたのはよいが、階別に温度の調整ができず、暑い寒いなどの問題があるとのことでした。機能性について大変参考になりました。

『長岡市』

長岡市は、全国に先駆けて中心市街地に市役所機能を移し、街の活性化に成功している事例で有名で全国から行政視察が殺到しています。コンセプトは、「市役所は市の職員が仕事をする場所ではなく市民が利用する施設」。施設は、市民の活動に無料開放(営利目的は、料金はかかりません)。

逆に言うと市民の活動拠点に、市役所機能を持たせた施設で、ここには、市民ホール、アリーナ、福祉カフェ、屋根付き広場、シアター、総合窓口コンビニ・カフェがあり、市民によるイベントが、7月であれば25回開催されています。駅前にくるとなんかやっているので行ってみようと思わせます。

イベントの仕掛けは、初年度は市が3割、民間が7割、現在は市が2割、民間が8割となり、市民発のイベントが増えたとのことでした。市発のイベントでは一流のイベントの誘致(例えば大相撲など)を行い、駅前活性化の強い思いを感じました。また、現在では市民組織がこの施設を運営しているという点にも驚きました。

施設は、心地よい場所でした。用がなくてもちょっとお茶のみにでも行ける場所でした。地域商店街への経済的効果については、7割が現状維持、3割が売上増で新店が増加したとのことでした。特に飲食店には効果があったとのこと。

三原市はこの事例を参考にすべきだと思います。駅や港、病院、福祉、図書館、マンション、公園、城跡などをどのように機能的に回遊できる居心地のいい空間にするかこれからのテーマだと思いました。(本当は庁舎も活性化の寄与する施設として有力だと思います。)

但し、三原市にあったコンパクトで身の丈にあったもので三原の強みを生かせるのがいいと思います。



※写真の出典：屋根付き広場
アオーレホームページより<http://www.ao-re.jp/>

■ その他個人活動

『半ドン夜市』

昨年からは半ドン夜市のメンバーに入れていただきました。本町で生まれ育った私としてはすごく思い出のあるお祭りです。一昨年に東京から三原に帰ってきたとき、このお祭りが、いまだに続いていることに感動したのを覚えています。

また、昨今の過疎化、人口減少時代においてこういったお祭りは、街の活力のため必要であると思いました。私もお役に立っているかどうかわかりませんが、今後も一躍を担わせていただきたいと思います。

夜店では、同級生との再会があったり、いろんな方々に激励をいただいたり、楽しくやらせていただいています。あの打ち上げも楽しみの一つです。



『桜山の掃除』

毎月最終週の日曜日に桜山の掃除、草取りなどを行っています。ここは、築城450年祭においても、貴重な観光資源として期待されます。山の頂上から浮城の一端をみることが出来ます。



『三原どうでしょう出演』

三原の情報番組に二回目の出演をさせていただきました。相変わらずカメラ目線は苦手ですが、現在の市政の課題、私の取組についてお話をさせていただきました。議会のヤジに関するエピソードも話させていただきました。私はヤジはあってよいと思っています。



『自転車でちょっと尾道餃子』

移動手段として、自転車をよく利用します。また、県の取り組む自転車による観光振興について経験する意味もあり、近くではありますが、自転車で走り回っています。お腹が引っ込むところまでは行ってません。



■ 9月議会の予定等

日	時間	会議
2日	10時	委員長会議(常任)
	11時	議会運営委員会
8日	10時	本会議 決算特別委員会 議会運営委員会
	10時	本会議
11日	10時	本会議
12日	10時	本会議
16日	10時	総務財務委員会
17日	10時	厚生文教委員会
18日	10時	経済建設委員会
19日	10時	補正予算特別委員会
22日	10時	決算特別委員会
25日	13時	議会運営委員会
	14時	本会議

※予定は変更になる場合があります。いずれも傍聴可能です。

■ 編集後記

この議会レポートの発行について、昨今話題となっています政務活動費を使っているのかとの質問がありました。この質問にも2つご意見があり、このようなレポートに政務調査費を活用しているんな議員が出すことによって切磋琢磨することはよいことだというご意見と、個人の活動に関して公費を使ってレポート発行することに対する反対のご意見です。

このレポートは自費の発行をしており、政務活動費でないということをご報告しておきます。三原市議会の解釈では、個人での報告は、後援会活動となり政務活動費を使うことは許されていません。但し、他の市・県議会では、許されているケースが多いようです。私としては、現状は無理ですが、少しでも使わせていただけると有り難いと思っています。

いずれにしても私は、議席をいただいている以上、レポート発行、ホームページ等に情報発信活動は続けて行きます。情報発信は、皆様に活動をお知らせする場であるとともに、私自身の整理、読んでいただいて厳しいご意見やご指導をいただく場でもあると思っています。今後ともよろしくお願いいたします。 正田 洋一

正田洋一事務所

お気軽にお問い合わせください。

〒723-0062 三原市本町 2-11-12

e-mail info@shoda-yoichi.jp

TEL/FAX 0848-63-0085

携帯 090-6001-0100

honesty

truth

fellowship future

go ahead

kindness

honesty

truth